

日本を代表する観光地の一つ伊東市。私は四月から、この伊東市にある市立伊東市民病院に勤務しています。同市内はもちろんのこと、伊豆半島東海岸地域の中核的な病院として、二十四時間三百六十五日、医療を提供しています。

外来で話を聞いたり診察をしたりする時も、患者さんたちは皆親切で優しく、本当に心が温まります。観光地という土地柄からでしょうか。『おもてなしの心』があるように思えます。私の方が、患者さんから元気をいただいているようです。

伊東市は、自然環境と調和した文化的な観光、レクリエーション、保養都市の実現を目指し、二〇〇〇年に「健康回復都

市宣言」を行いました。大学在学中、ヨット部に所属していた私も、週末は海へ、そして山へ

と出掛け、伊東市の豊かな自然を満喫しています。自治医科大学を卒業し、医師として八年目を迎えました。大学卒業後は、静岡県立総合病院で二年の初期研修を行った後、

「おもてなしの心」で接する

さらに二年間、同病院で整形外科研修を行いながら、へき地医療代診医として勤務しました。その後は、浜松市国民健康保険

常にある重要なもので、医師としての原点を佐久間病院時代に学びました。

高齢化がすすむ現在、腰、ひざ、肩などの痛みを訴えて病院を訪れる人は増える一方です。骨粗しょう症に合併する骨折で、手術などの治療を受ける患者さんも数多く入院されます。

転ばぬ先のつえ

高年齢で骨折のために入院したり手術を受けたりすると、残念ながら寝たきりになってしまうことがあります。そのため、私は外来で最近、骨粗しょう症の患者さんの治療や、転倒予防の指導などに力を入れていきます。いわば「転ばぬ先のつえ」でしょうか。

患者の日常と密接

山間地域では巡回バスが病院まで運行していますが、病院や診療所に通えない人たちがいます。病院で診察しているだけでは分からない患者さんの悩みや生活の背景を、直接、家に出向くことで知ることができ、医療が患者さんの日常生活に密接にかかわっているということを感じました。こうした経験は非

さまざまなおもてなしの心を持って接するように常に心掛けています。そして、笑顔で退院される患者さんを見届けるのが、私の最高の喜びでもあります。

(次回予定は宮崎県)



全国リレーエッセー
静岡県

のりまつ
乗松

ゆうすけ
祐佐

23期生、2000年卒



病院屋上から初島を眺める。左が筆者で、右が病院管理者の築地治久(つきじ・はるひさ)医師

伊東市立伊東市民病院

【私の勤務地】伊東市内を見下ろす高台に建設され、院内には温泉も完備されている。2001年3月に旧国立伊東温泉病院から市立伊東市民病院へと名称を変更した。特色ある「地域医療指向プログラム」を掲げ、臨床研修指定病院として総合的な研修を行っている。